

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社ファミリエ
事業所名	グループホーム橙園
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内1-583-1
自己評価作成日	平成24年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年1月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と共に過ごす時間の充実を図っている(食事・お茶)。相談事は納得ゆくまで傾聴し、本人、ご家族がともに豊かに日常生活が送れるように関係性を良好にできるように努めている。</li> <li>・運営推進会議では委員さんの意見を多くいただき、支援状態を常に確認している。</li> <li>・職員の内外研修</li> <li>・医療連携</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>●9月に行われた地域密着型サービス協会主催の四国交流フォーラムにおいて、「最後までたべようやあ〜口腔リハビリをして元気になった〜」というテーマで職員が事例発表され、大賞を受賞された。</li> <li>●管理者の「新鮮な旬の魚を食べていただきたい。」という思いから、週2回程度、昼食に刺身をお出ししている。現在、刺身が苦手な方はおられず、みな喜ばれるようだ。時々夕食に、「フリーメニュー」の日を設け、食材を見ながら利用者と献立を考えて食事作りされている。</li> <li>●利用者は、職員と一緒に近くの神社、地域の公民館や学校等での行事に年間を通して参加されている。又、交流のある他事業所の行事に参加して、利用者の方達と一緒に楽しい時間を過ごされることもある。又、松山方面の事業所の夏祭りにも参加して交流をされている。桜やツツジ、コスモス等、季節の花を見に出かけることもある。目の不自由な利用者の方も一緒に外出して、風や匂い等で季節を感じてもらえるよう支援されている。</li> </ul>
---

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム橙園

(ユニット名) サルビア

記入者(管理者)  
氏名 榊田イチ子

評価完了日 平成24年12月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 理念は開設当初よりそれぞれの場所(来訪者、スタッフ)の目に入りやすい所に掲げ、月に一度の業務カンファレンスなどで確認し合ったり、また、今年の実践リーダー研修者の実習の中で接遇と共に細かく改めて考え、勉強し直した。今後、年間計画(施設内研修)に入れる予定。</p> <p><b>(外部評価)</b> 開設当初作成された理念、「心身の障害があっても あなたらしく私らしく 心豊かに 人としての尊厳を守る」を、玄関や各ユニットの居間等に掲げておられる。管理者は、「利用者の、できないところをカバーするのが職員の仕事」と、日々の中で話しておられ、事業所全体で利用者が、「あなたらしく、私らしく生きる」ことに向けて一丸となって取り組まれている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p><b>(自己評価)</b> 防災での避難訓練、地域のお祭り(夏・冬)、地区の清掃。公民館の催し物に展示物の出品・見学、運動会参加。小・中学校・幼稚園からの訪問。年度始めの運営推進会議は公民館で公開している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 8月に開催する事業所の夏祭りは、恒例の行事となっており、多くの地域の方が参加して楽しまれている。法人の小規模多機能事業所が開設したことから、昨年より合同で行われている。焼きそばやかき氷等のパザーは、ボランティアが担当してくださり、地域の方やご家族に、楽しんでいただきたいと考えおられる。年1度、小学生の訪問があり、利用者は小学生と話したり、ゲーム等をしてふれ合っておられる。中学生の職場体験では、利用者が中学生と一緒に昼食を楽しまれた。定期的にカラオケや三味線、押し花等、ボランティアの訪問があり、利用者は併設のデイサービスや近くの小規模多機能事業所に出向いて楽しんでおられる。又、近くの神社の季節毎にあるお祭りや公民館での行事、地域の学校の運動会等、地域に出かけていく機会も多い。地域の婦人会の方からは、「橙園ができてから、認知症に対する考えが明るくなった」等の言葉もいただくようだ。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 公開の運営推進会議では、認知症の人の生活～関わりなどを各部署リーダーが発表し、質疑応答を行っている。夏祭りは利用者さん全員参加で、地域の方々にも呼びかけ参加していただいている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月間の実施報告、研修(職員) レクレーション・作業等について、利用者、家族他、委員さん多数参加で意見を出してもらっている。 委員からの要望やお考えは必ず取り入れている。</p> <p>(外部評価) H24年4月、事業所前の道を挟んだ場所に、法人の小規模多機能事業所を開設され、合同で会議を開催されている。開設以来、年に1度は、運営推進会議を公開しておられ、地域の方々に「施設の内容を広く知ってもらおう」ことに取り組まれている。昨年度末に、公民館にて開催した公開会議には、日頃、会議に参加して下さる方以外に、ボランティア、婦人会、地域の方々等、70人ほどの参加があった。会議では、代表者が運営状況の説明をされ、職員がパワーポイントを使って行事の際等の利用者の様子等を説明された。又、管理者からは、外部評価についての説明や現在力を入れて取り組んでいること等を説明された。通常の会議は、市の担当者、老人会会長、婦人会会長、区長、日赤奉仕団、民生委員等、多数の方に参加していただいている。会議では、職員の研修報告等もされており、地域の方から、「近いうちにお世話にならないといけないだろう。」「職員がよく勉強していて頼もしい。」等と感想をいただいた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は必ず参加していただいている。 平成24年4月に小規模多機能型居宅介護橙園が開設したとき、新規職員対象の勉強会を開催し、参加していただいた。</p> <p>(外部評価) 月に1度、2名のさわやか相談員の訪問がある。成年後見制度を利用されている方は、後見人の方が月に一度訪問して下さり、運営推進会議にも参加して下さっている。9月に行われた地域密着型サービス協会主催の四国交流フォーラムにおいて、「最後までたべようやあ ～口腔リハビリをして元気になった～」というテーマで職員が事例発表され、大賞を受賞された。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 開設時より拘束は一度もない。 特別な時間帯以外、利用者・家族の出入りは自由。</p> <p>(外部評価) 日中は、施錠されていない。ユニットの行き来も自由にされており、調査訪問時には、別のユニットで過ごす利用者の様子がみられた。外に出ようとする利用者の方には、職員が付き添い、一緒に散歩したり、併設するデイサービスや道を渡って、系列小規模多機能事業所で一服する等して過ごせるよう支援されている。職員は、利用者の所在を把握しておくことや、玄関に面する事務所に、「誰かが居る」ように気を付けておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>1ヶ月に一回の業務カンファレンス(全体)、ケアカンファレンス(ユニット別)で、声のかけ方、介助時の対応など、意見を出し合い、確認している。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>今年の3月(小規模多機能型居宅介護橙園の開設時)に全員勉強会で権利擁護について、市・社協担当者の方を講師に招き、学習した。また、保健センターの勉強会にも参加した。 現在はおられないが、8月までは1名利用されていた。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約書・重要事項説明書に基づき、利用開始日より以前に説明し、理解・納得の上、捺印していただいている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>運営委員会や面接時、ケアプラン説明時などにご意見をお聞きしている。 また、1ヶ月に1回御家族への通信にも、ご意見をいただきたい旨を記載している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族へのお便りには、毎月、利用者の写真を同封し、又、2ヶ月に1度は、「橙園だより」を同封して送付されている。前回の外部評価を受け、今まで以上にご家族とのコミュニケーションを図れるような取り組みを工夫されている。たとえば、計画作成担当者が毎月、「健康状態、作業・活動、交流、連絡事項」の項目ごとにコメントを書き、又、カレンダーに行事予定を入れて利用者個々のお便りをつくり、同封することを始められた。ご家族からは、「写真だけでもよかったけど、さらに様子がよくわかって嬉しい。」と、感想をいただいた。又、ご家族によっては、他家族にも送りたいと複数枚希望する方もいる。又、行事予定が書かれてあることで、ご家族が行事に参加して下さることが増えたことや、誕生会の日に合わせて、誕生月のご家族からお祝いが届くこともあるようだ。遠方のご家族とは、メールでやりとりされる方もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 1ヶ月1回の業務カンファレンス、代表者による運営委員会などにおいて意見を聞いている。 職員からの意見で取り入れられることは議論を重ねた上で取り入れている。	
			(外部評価) 年2回、職員は、「自己評価」と「相互評価」(ユニット職員の評価)を実施し、同じ時期に、「職場に対するアンケート」を取り、職員が意見を出す仕組みを作っておられ、管理者が一つひとつの意見に目を通してコメントを書き、集計したものは、職員に回覧するようになっている。職員は、他職員の意見を見て学ぶ機会にもなっているようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各自の自己評価を含め、研修実績、個々の特徴を生かした人事、個々の家庭事情など細かく検討し考慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 検収は、受ける資格に条件が満たされている者は、段階的に機会を与えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着事業所どうし、運営推進会議にお互いに参加し合っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 自己紹介しつつ、利用者さんの状況を傾聴しながら、こちらの経験もあれば同感と伝えたり、他者の〇〇さんと同じ話を合わせる。得意な趣味などがあれば、それを中心に会話に入れる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 重要事項の説明、理念・尊厳などの説明、ご利用者を守る環境であることの説明、ご利用者さんを取り巻く様々な不安はどの家族も同じと、一緒に解決できる範囲の協力ができる、と傾聴する。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家庭環境、心身の状態(本人)を知り、ご本人、ご家族がどのような要望を持っておられるかを見極め、信頼しているご近所の方に自宅へ同行してもらい、畑の作業を手伝ってもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者さんの過去で嬉しかったこと、楽しかったこと、今は(生活上の気持ち)何が楽しみか、ご本人の自慢話など、お互いに会話の中に入れ、明日になれば忘れられることも、今の会話を楽しんでもらっている。話が盛り上がらない方は、季節の歌などを歌って気持ちを合わせる。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や、一か月の様子をお知らせする各自の通信などで、体調・作業・活動など細かくお伝えし、日々ご本人がどの程度安定した「本意」の生活ができていないか、認識し合う関係づくりをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人が希望する場所は把握してケアプランに入れている。 (田村さん、平家さん)	
			(外部評価) 毎年、利用者が、「大事な人に年賀状を書く」ことを支援されており、ひとりでは字を書くことが難しい方も、職員が手を添えてお手伝いをされている。利用者の中には、年末年始に、ご自宅に帰ってご家族とともに新年を迎えられた方もおられる。昔の教え子や友人が訪ねて来られて、居室で会話をし、楽しい時間を過ごされる方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) その場での会話を楽しむことのできる方は少数おられ、その方達の隣へ一緒にお願いしますと声掛け、気持ちよく「どうぞ」と言われ、入れてもらえる。レク作業の誘導ではできる利用者さんをお願いし手伝っていただく。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院→退去となられた方が、他病院へ受診が必要となった。ご家族と、現入院中の看護師さんの同行はあるが、不安があるので付き添ってほしいとの依頼があり、すぐに同行し、診療→入院まで付き添った。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段、利用者さんどうし、またはスタッフとの会話の中で聞きとめ、機会ある時にご本人に確認する。 (外部評価) 事業所では、前回の外部評価を受け、「利用者の表情やしぐさ、行動、言葉の中から思いをくみ取るため、これまで以上にしっかり観察すること」に取り組まれた。	利用者が、意思表示することが難しい状態になられても、最期まで、「あなたらしく 私らしく」暮らし続けられるように、早い段階からいろいろな場面を捉えて、暮らし方や終末期のあり方等の希望やこだわりについても情報収集に取り組み、さらなる利用者本位のケアを目指していかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の事前面談・面会時などにご本人の様子を見ていただきながら、情報が一つ一つ増えることも多い。ご家族のお話はしっかり聞くことに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の申し送り時、昨夜の睡眠から午前または午後のバイタルなどから状態を把握している。声掛けし、会話が弾むか否か、一日一つのことのできる事が実行されているか、などより把握している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 3か月間のモニタリングでは個別担当者が介護記録の中から抜粋したものを発表し、ユニット全体で目標達成の度合い、サービス内容が充実しているものであるか、心身状態が変化していないか、ご家族の思いなど、取り入れ、話し合っている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、市からのアドバイスもあって、「一人にひとつ毎日続けてできること」を介護計画に採り入れ支援をすすめておられる。又、「洗濯物を干すこと」や「たたむこと」等、すべての利用者の役割を一覧にして居間の壁に貼っておられた。計画は、基本的に3ヶ月毎に見直しをされている。モニタリングは、利用者個々の担当職員が日々の介護記録から、「医療状況」「身体状況」「精神状況」「家族及び他者と交流」「具体的会議状況」に分けて抜粋し、それに基づきユニットの全職員で行っておられる。今年1月より、日々の介護記録の用紙を一日1枚にまとめる様式に改めておられ、職員が見やすくなったようだ。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録、医療記録があり、また、一か月分のわかりやすい表を用いて、毎月ケアカンファレンスで全員の様子を確認している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ○本人の希望する外出の同行 ○突然の訪問でも、ご家族の都合に合わせて一緒に食事をする(勧める) ○ご家族へ送り物の時は品をそろえ、準備し、送りに同行する</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日赤奉仕団、婦人会、地区の公民館、幼稚園、小中学校などのイベントに招待されて出かけた、来訪していただいたの交流などは年間を通して数回ある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 定期受診、必要時受診は、ご家族の希望される医療機関へ同行し、ご家族の同行の有無は意見に従っている。主治医より説明を受ける必要性のある時は、できる限り同行をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 利用者個々に以前から診てもらっている病院に続けて診てもらえるよう支援されている。定期受診は、基本的に看護師資格を有する職員が同行されており、ご家族の希望によっては、付き添っていただくこともある。受診結果によっては、ご家族に電話で報告し、異常がなければ来訪時に日頃の様子と併せて報告されている。利用者の状況によっては、個々のかかりつけ医にも往診していただけるよう事業所からお願いされている。事業所では、「口腔リハビリ」に力を入れておられ、月に一度、歯科医師と歯科衛生士が来て、指導して下さっている。状態によっては、皮膚科の往診も受けられるようになってきている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 毎日の申し送りや、変化があると思える状態があったらその都度、看護師に伝え、看護師は確認をし、必要な処置を取っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時は情報提供書(入居時から現在まで)を用い、医師、医療連携室、家族、担当とサービス担当者会議を行い、利用者及びご家族にとって最も良い治療方法を選択している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 終末期については入居時説明の段階から、ご家族の意向を確認している。医師、看護師による訪問診療、訪問看護の必要となる時期について、段階的に確認し、決定する。</p> <p>(外部評価) ご家族より看取りの希望があれば、事業所では、利用者個々のかかりつけ医の協力のもと、ご家族とともに最期まで「その人らしい暮らし」を支援していくこととされている。現在、「数日でもいいから人の声、知り合いの声を聞きながら最期を迎えてほしい。」というご家族の希望から、一時入院していたが、退院して来られて終末期を事業所で過ごしている方がいる。居室には、ご本人がお好きな蘭の鉢植えをご家族が飾っておられた。又、ご家族が持って来られたご本人がお好きなクラシックのCDを流しておられた。職員は、度々訪室して声をかけておられ、ご本人は言葉で返答することは難しいようであるが、目を開けて応えてくださるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 不定期ではあるが、常に小さい出来事(ややむせがあるや、手足の小さい皮膚剥離など)他、急変期に備えての対応の仕方は、日常的にと言ってよいほど伝え、急変時対応訓練は、消防署の協力で受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 2ヶ月に1回、消防署の協力で、それぞれを想定した防災訓練を行っている。避難場所は地区で決められ、職員が把握している。地区の回覧板などで協力体制を密にしている。	管理者は、火災等いざという時は、地域の方が「自発的に来てくれるなら別だけど、消防署にお願いするしかない。」と考えておられる。いざという時の利用者、職員の安全・安心に向けて、具体的な訓練を重ねられ、事業所が地域にできること、又、事業所に協力してほしいこと等を話し合いながら、地域の方達と協力し合えるような取り組み等もすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 消防署の協力のもと年2回、避難訓練を実施されており、事業所独自でも2ヶ月毎に避難訓練を行っておられる。昨春秋、消防署の協力のもと、日中の火災を想定して避難訓練を行った際、区長や数名の地域の方に見学をいただいた。夜間、火災が発生した場合には、近所に住む職員が駆けつけるようになっている。昨年9月、地震から津波が発生したことを想定した避難訓練を八幡浜市全体で実施された際には、歩行できる利用者や車いすで移動できる利用者は職員とともに参加し、高台にある公民館まで避難された。事業所では、いざという時のために、食料や水、オムツ、タオル、懐中電灯等を準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊重については、機会を捉え(業務カンファレンスなどで)話し合っている。一人一人の誇りやプライバシーについては、職員の言葉かけが適していないと思える時は取り上げ注意することとしている。	
			(外部評価) 管理者は、「介護は接遇」であると考えておられる。「してあげる」「上から目線にならない」「人と人との付き合いをする」等、常に同じことを繰り返して職員に話されている。職員の利用者への声かけ等で気になった時には、その場で注意し、利用者の立場から考えられるよう話しておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) レク作業などの参加は、内容を説明し、参加・不参加を確認。日常の着替えの好み、おやつ時の物の選び方、食事の好み、また、ベッドで休みたいか、声掛けし、希望をうかがっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 午前中はデイサービスと合同の体操以外は自由な時間で、体操の声掛けをして気が向けば行かれ、休みたいという方は居室で居室で休まれる。また、窓辺で日光浴、テレビ観賞などで過ごされる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洗顔後や入浴後など、化粧水や乳液を使用し、髪が伸びてきたらカットを勧める。洋服を選べない時は、上下バランスの取れるものを着てもらったり、首元にスカーフをまいたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブルの上に今日使用する食材料を準備し、何を作るかを話し、一緒に下準備の声掛けをし、材料をどのように切ったら食べやすいか、美味しく見えるか、会話を盛り込み進めている。 (外部評価) 法人の栄養士が法人内事業所全体で同じ献立を立て、ユニット毎に調理をされている。管理者の「新鮮な旬の魚を食べていただきたい。」という思いから、週2回程度、昼食に刺身をお出している。現在、刺身が苦手な方はおられず、みな喜ばれるようだ。食材は、まとめて大量に仕入れておられ、時々夕食に、「フリーメニュー」の日を設け、食材を見ながら利用者と献立を考えて食事作りされている。調査訪問時の昼食は、お寿司で、利用者は野菜を切ったり、盛り付けや配膳等を職員と一緒にやっておられた。食後は、下膳する利用者様子も見られた。事業所は、「最後まで口から食べる」ことに力を入れて取り組んでおられる。たとえば、入居時、ミキサー食だった方は、まずは、お粥が食べられるよう支援して、ご本人から、「みんなと一緒に物が食べたい」等の言葉が聞かれた際をきっかけにして、調理方法を工夫して、さらに支援を重ねられている。調査訪問時の昼食は、みなと同じお寿司を食べておられ、現在は、食事は普通食で水分のみトロミを付け支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主食が進まない時など、漬物などを好みに合わせて出したり、おかずに好き嫌いがあり進まない時は、何種類か好みのおかずを把握しておき、代替えで食べていただく工夫をしている。水分は一度に多くはなく、少ない量を度々勧めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内に麻痺がある、また、口腔にトラブルのある方、飲み込みに注意の必要な方を中心に、一か月一回の歯科受診、歯科衛生士さんの訪問で口腔ケアに努めている。口腔ケアの方法は、訪問歯科衛生士さんから、また、外部の研修などで勉強を重ねている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを知り、時間を見て誘導し、パット汚染を減らすよう努力している。尿・便意がわからなくても、トイレでの排泄を継続できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレの声かけや誘導を行い、現在、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄をされている。又、昼間は布パンツで過ごされる方もおられる。入居後間もない方で、紙オムツを使用され、尿道カテーテルを留置している方がおられる。入居後、排便はトイレでできるよう支援され、今後は、紙パンツに移行して、「排尿訓練」を行うことで、自然に排尿できるよう支援していきたいと考えておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の摂取量、水分量を確認し、食事内容も偏らないものを献立に取り入れている。どうしても便秘症になりがちな方は、主治医と相談して、必要な時、適当な下剤・緩下剤の使用をしている。身体状況の確認は主に看護師が毎日行っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴を好まれる方は午前中にお誘いすることもある。嫌がられる方は数名おられ、時間をおいて入りたい気分になられる時に入っていただく。	
			(外部評価) 基本的には、午後からが入浴時間となっており、利用者個々に、週2回入浴できるよう支援されている。入浴を好まれない方等は、入浴回数が少なくなることもあるようだ。入浴しない場合は、清拭したり更衣できるよう支援されている。終末期を過ごされている方は、毎日清拭して気持ちよく過ごせるように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 休息はその時の気分でしていただく。車イスの方は一日のうち休息の必要と思えるようなことがあり、気持ちを聞いて短時間で休んでもらう。夜の安眠は、適当な時間までリビングでテレビを見てもらったり、薄いお茶、白湯(再々トイレがある方)など勧める。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 9人全員の薬名を(病院に合わせて)表に書き込み、現在服用中の薬が誰でもわかるように、場所を決めて置いている。また、介護記録の上段にも記入がある。服薬は看護師の指示で行っている。副作用についても確認し合っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の能力を把握し、得意と思われることの誘導をしている。「食事の盛り付けが上手」「歌を歌ったり、聞くのが好き」「ちょっと何か一つ食べたい」等。また、全員に「一日に一つ続けてできること」を見つけ、役割が密につながるようにと努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の催し物は、声掛け、説明し、みんなで出かける楽しみも持ってもらう。コンサートホール、学校の運動会などは「橙園の席」を設けてもらう。 一人の希望は急ぐ気持ちの時は親しい隣人の方に都合をお聞きしたり、人員の許せるときはスタッフが付き添い外出する。その日が無理な時は本人と話して日を決めて外出する。 (外部評価) 利用者は、職員と一緒に近くの神社、地域の公民館や学校等での行事に年間を通して参加されている。又、交流のある他事業所の行事に参加して、利用者の方達と一緒に楽しい時間を過ごされることもある。又、松山方面の事業所の夏祭りにも参加して交流をされている。桜やツツジ、コスモス等、季節の花を見に出かけることもある。目の不自由な利用者の方も一緒に外出して、風や匂い等で季節を感じてもらえるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額のお金は持ってもらっている。(全員ではない) 受診同行した時、ご自分で支払われる。また、お孫さんたちの面会があった時はお小遣いをあげたり、バザーに出かけた時には買いたいものを買ってもらう。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は本人、ご家族の希望で、携帯を持たれ、自由に思い思いの相手の方にかけている方もいる。送りものを受け取った時のお礼のお手紙や、お礼の電話はしてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> リビングはフローリングの他に畳の間もあり、テーブルを置き、面会時に座ってお茶を飲まれたり、洗濯物をたたまれたりしている。台所はいつでも誰でもは入れるように、危険な物(ナイフ、ガスの火の始末)がないよう気を使っている。リビングや玄関、自室には、庭の花などを摘んできて生けている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 玄関には、職員が生けた南天や松等に水引をあしらったお正月の盛り花が飾られてあった。居間は、窓から光が入り明るく、調査訪問時には、利用者は、ソファでくつろがれたり、食卓の机でウエス作りをしながら会話を楽しまれていた。居間の一角に一段高くなっている畳スペースがあり、利用者が洗濯物をたたんだり、来客時には正座のできる方が一緒に食事をされることもあるようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> テレビを近くで見たい時はテーブルで、お話したい時はソファ(3人掛け)で、日光浴は窓辺で、また、畳で腰かけて台所のスタッフと話をしたり、それぞれの場所で過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> ご本人が「自分の居場所」と感じていただけるよう使い慣れた布団、整理ダンス、洋服かけ、テーブル、小鉢の植え物を置いたり、ご家族の写真、好みの絵などを飾ってもらっている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 初詣で買って来られた御札を居室の入り口に貼っている方や、居室の壁に書初めの作品やご家族の写真、誕生日カード、ご家族の年賀状等も飾っておられた。机やテーブル、ソファ等を持ち込まれている方もおられた。ベッドを持ち込まれている方もおられるが、事業所でレンタルしているベッドを使用されている方が多いようだ。居室は、フローリングにベッド、畳にベッド、畳に布団と、利用者のこれまでの生活や身体状態に合わせてしつらえておられる。布団をご自分で上げ下げされる方もある。終末期を過ごしておられる方は、ベッドからの離床が難しいため、窓を開けて外の風を感じられるよう支援されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p><b>(自己評価)</b> 自室は名札、浴室やトイレは大きい文字で目印をしている。洗濯したい時は浴室や洗濯場でしてもらい、食事の準備時は台所テーブル拭きを取りに行かれたり、畳の上に取り入れた洗濯物があれば自発的に集ってたたまれる。台所の棚にミカンがあれば自由に食べられている。</p>	